



大田区キャッシュレス決済導入状況
調査報告書
(令和6・7年度実施)

令和8年3月
大田区 産業経済部 産業振興課

1. 総論

1.1 調査の背景

少子高齢化や人口減少に伴う労働人口の減少によって、様々な場面での生産性の向上が強く求められている。

2017年6月に閣議決定された「未来投資戦略2017」ではKPIとして「2027年までにキャッシュレス決済比率を4割程度とする」ことを目指すとされた。

また、経済産業省が2018年4月に策定した「キャッシュレス・ビジョン」では前述の目標実現に向けた具体的な方策として▽実店舗におけるキャッシュレス支払導入にかかるボトルネックの解消▽消費者に対する利便性向上と試す機会の拡大—などを挙げている。

さらに、「将来的に世界最高水準の80%を目指す」という方向性を示した。

大田区では、2020年3月以降、コロナ禍による「非接触式決済の普及」という社会的要請の高まりを受けて、2021年(令和3年度)にプレミアム付デジタル商品券を発行。

スマートフォンのアプリ(WEBアプリ)を活用したデジタル商品券により、区民・区内店舗での非接触式決済活用の端緒とした。

区全域でのキャッシュレス決済推進事業は令和3年度から令和7年度にかけて、下表のとおり、実施している。

キャッシュレス決済導入推進関連事業の事業評価及び区内店舗におけるキャッシュレス決済の導入状況を把握するため、本調査を実施した。

【大田区によるキャッシュレス決済推進事業】

年度	事業概要	事業目的
令和3	WEBアプリ型	区内店舗における キャッシュレス決済 導入推進
令和4	ネイティブアプリ型	
令和5		
令和6		
令和7	8月 PayPay	キャッシュレス導入推進 区民生活応援
	1月 PayPay・AEON Pay	

2. 調査概要

2.1 調査の対象

(1)対象店舗

区内16駅からおおむね500mの範囲にある店舗 3,917店舗
※有効回答である第1期 2,311店舗、第2期 1,607店舗を集計対象とした。

(2)対象となる駅

JR京浜東北線:蒲田駅、大森駅
京浜急行:糀谷駅、雑色駅、京急蒲田駅、梅屋敷駅、平和島駅
東急多摩川線:矢口渡駅、武蔵新田駅、下丸子駅
東急池上線:池上駅、久が原駅、雪谷大塚駅、長原駅
東急目黒線:田園調布駅、大岡山駅

2.2 調査期間

第1期 令和6年12月9日から令和7年1月17日まで
第2期 令和7年9月1日から同年10月10日まで

2.3 調査方法

調査員による現地聞き取り(常時4名、最大6名が稼働)

2.4 調査項目

下表のとおり

店舗基礎情報	1:店舗名 2:最寄り駅名 3:業種
調査項目	1:キャッシュレス決済を導入しているか 2:導入しているキャッシュレス決済の種類 3:キャッシュレス決済を導入しない理由 4:キャッシュレス決済を導入しない理由(自由意見) 5:商店会への加入 6:大田区デジタル商品券への参加経験

2.5 調査委託事業者

東西株式会社

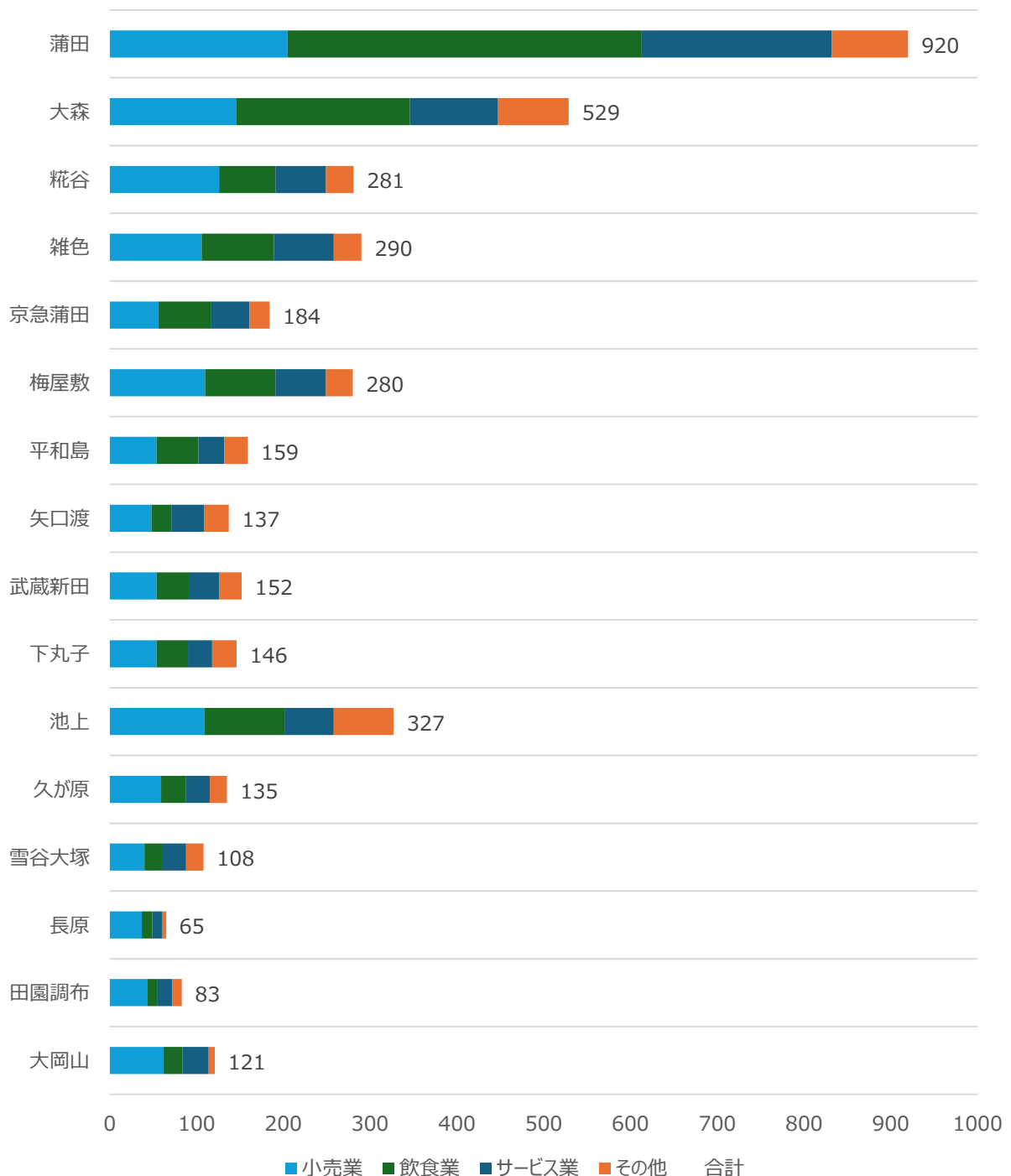
3. 調査結果

3.1 店舗基礎情報

(1) 最寄り駅別調査回答店舗数

調査は各駅からおおむね500mの範囲にある店舗を対象に実施した。調査員が訪問し、回答を得られた店舗(3,917店舗)のうち、駅別では「蒲田」が920店で最も多く、「大森」の529店、「池上」の327店、「雑色」の290店、「糀谷」の281店と続いている。

■ 各駅での調査回答店舗数



3. 調査結果

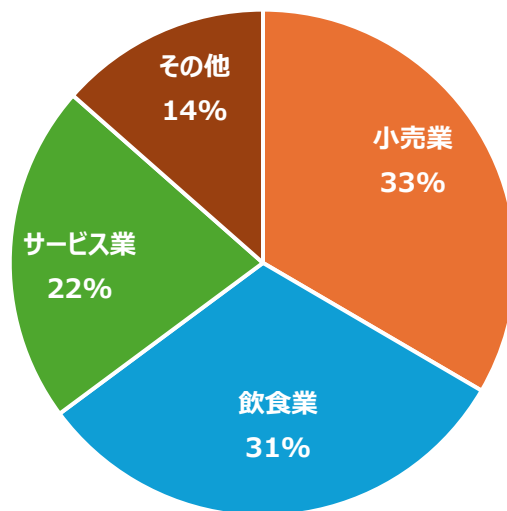
3.1 店舗基礎情報

(2) 店舗の業種

調査回答店舗3,917店のうち、「小売業」が33%(1,309店)で最も多く、「飲食業」が31%(1,231店)、「サービス業」が22%(848店)、「その他」が14%(529店)となった。

「その他」には医療機関・調剤薬局のほか、サービスと物販を行う複合店舗、BtoBの卸売業などが含まれている。

■ 店舗業種



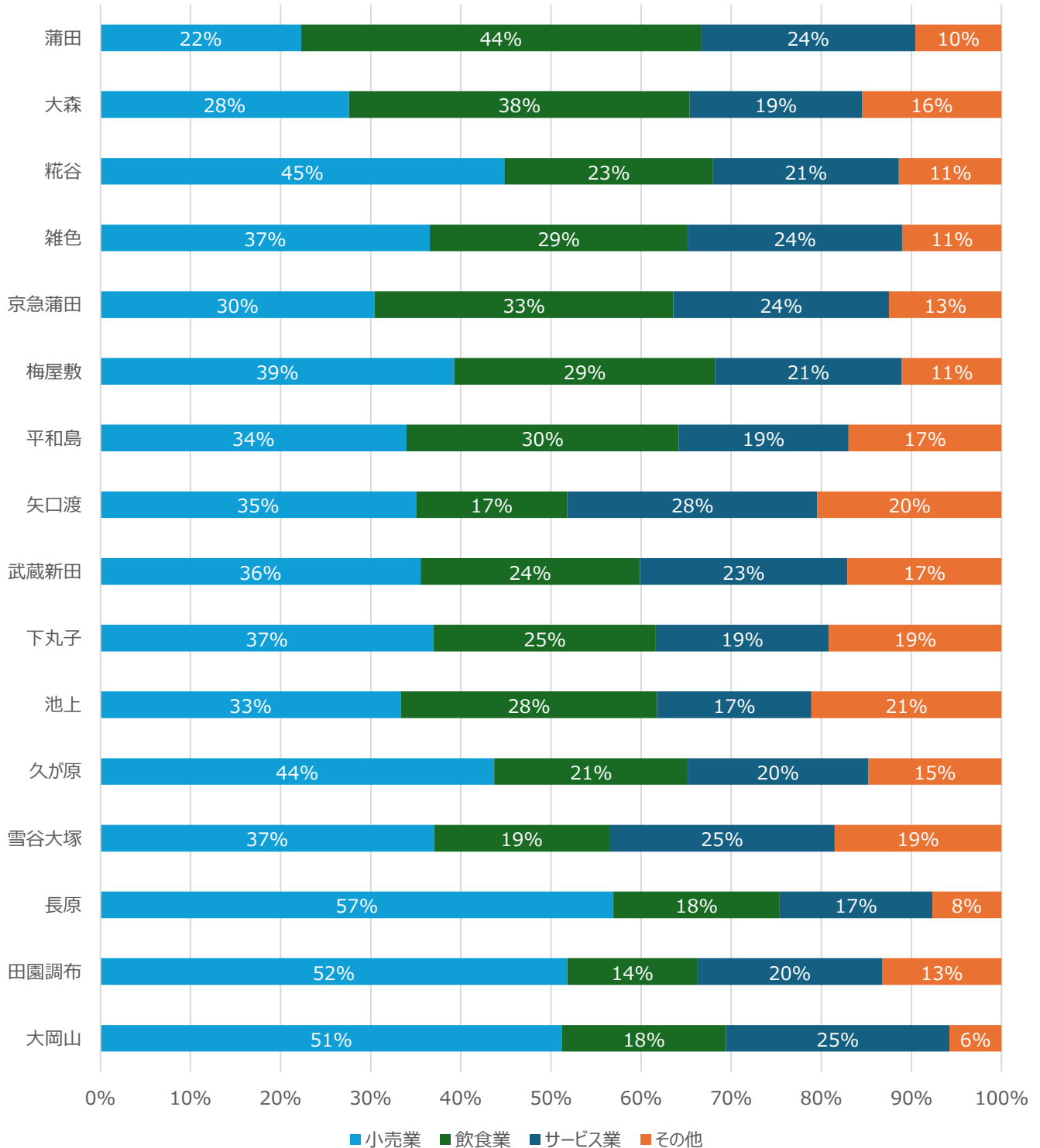
3. 調査結果

3.1 店舗基礎情報

(3) 最寄り駅別の業種構成

対象店舗について、各駅での業種構成をみると、蒲田駅・大森駅・京急蒲田駅では飲食業が多く、長原駅・田園調布駅・大岡山駅では小売業の割合が高くなっている。

■ 各駅の業種構成



3. 調査結果

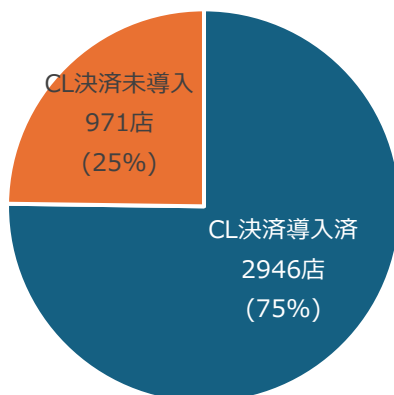
3.2 キャッシュレス決済導入状況

(1) キャッシュレス決済導入率

調査回答店舗のうち、なんらかのキャッシュレス決済を導入していると答えた店舗は2,946店(75%)となった。

キャッシュレス決済未導入の店舗は971店(25%)だった。

■ キャッシュレス決済導入率

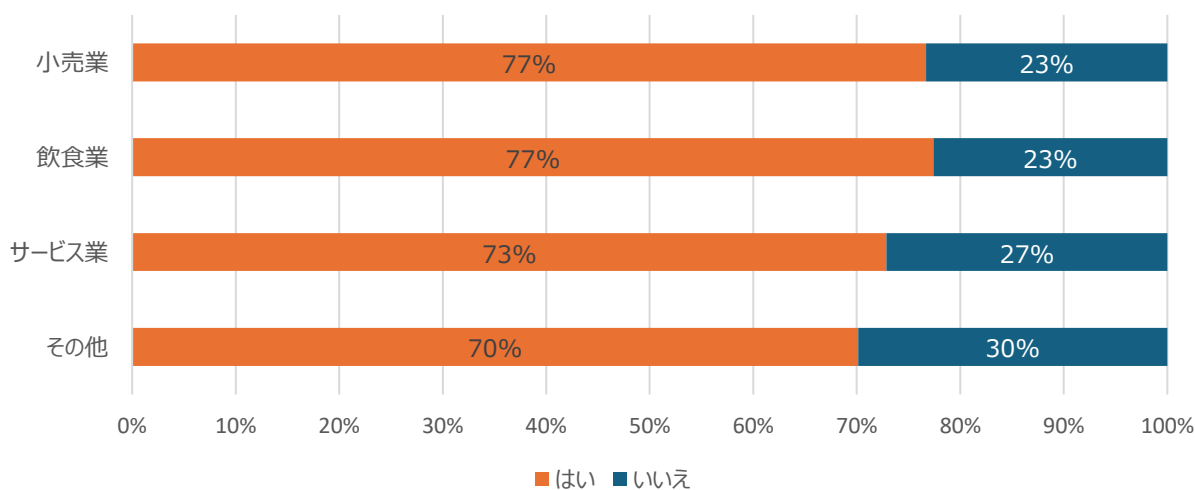


(2) 業種別キャッシュレス決済導入率

業種別にキャッシュレス決済導入率をみると、小売業と飲食業で77%、サービス業が73%となった。

その他の業種では70%となったが、これは卸売業などの店頭決済を行わず、請求書・振込で対応する業種が含まれることが理由だと考えられる。

■ 業種別キャッシュレス決済導入率



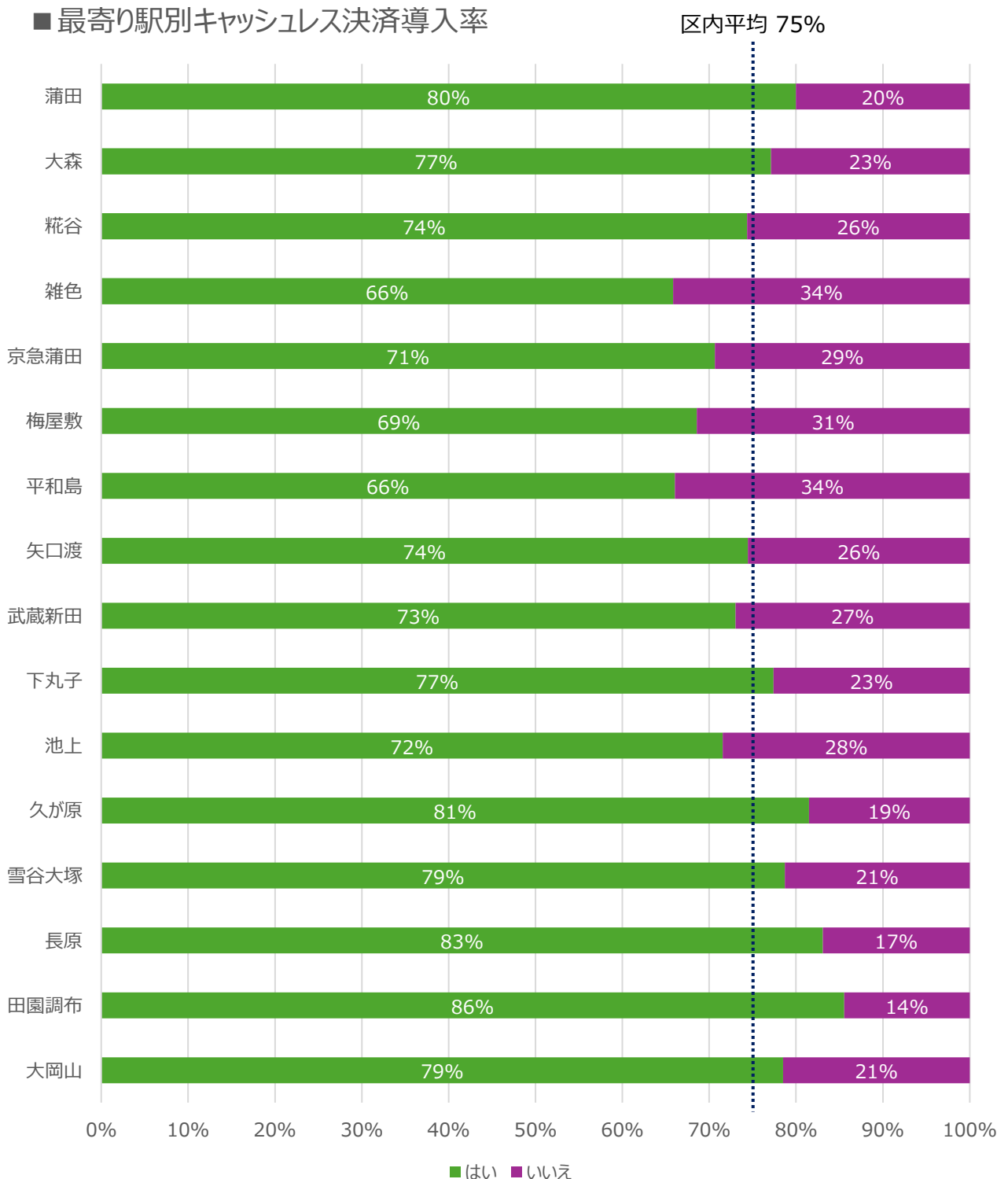
3. 調査結果

3.2 キャッシュレス決済導入状況

(3) 最寄り駅別キャッシュレス決済導入率

調査全体でのキャッシュレス決済導入率は75%となった。

最寄り駅別にキャッシュレス決済導入率をみると、区内平均を上回ったのは「田園調布」の86%、「長原」の83%、「久が原」の81%、「蒲田」の80%と続いた。



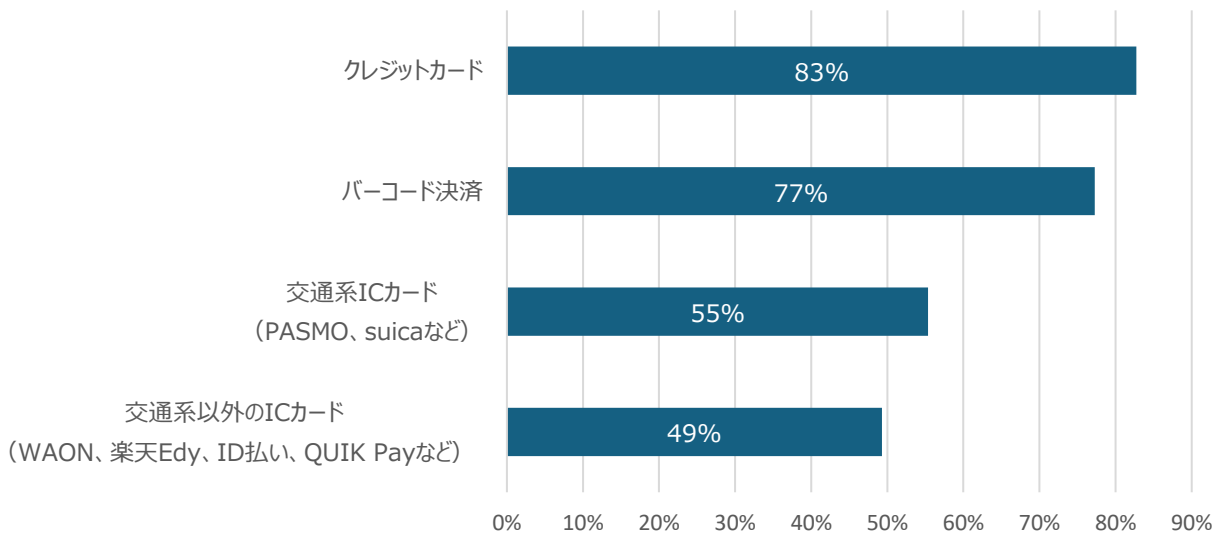
3. 調査結果

3.2 キャッシュレス決済導入状況

(4) 導入済キャッシュレス決済の種類

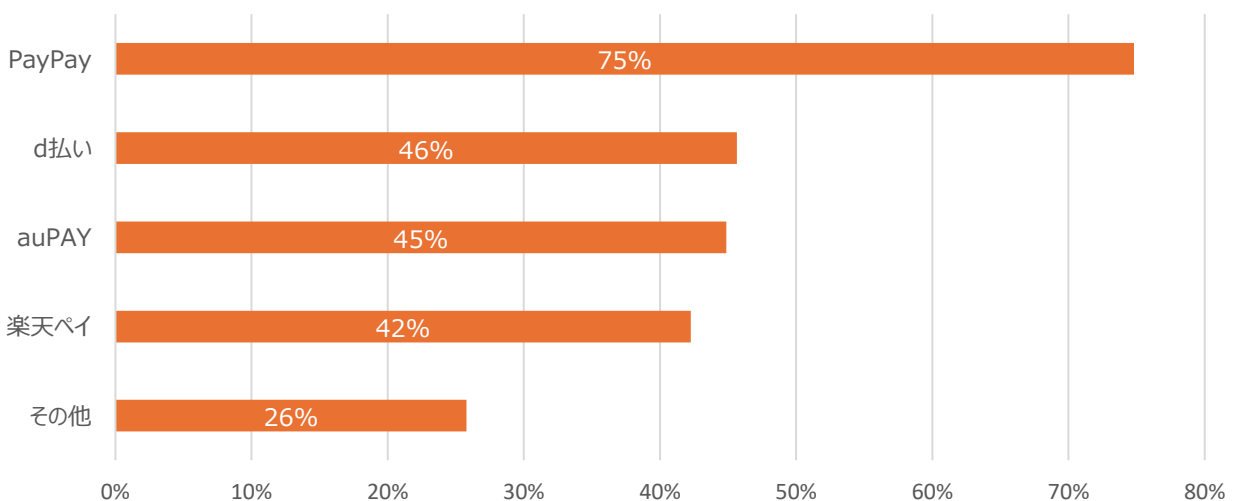
キャッシュレス決済を導入している店舗において、導入している決済手法は「クレジットカード」が83%で最も多く、「バーコード決済」が77%、「交通系ICカード」が55%、「交通系以外のICカード」が49%となった。

■ 導入しているキャッシュレス決済（複数回答）



導入しているバーコード決済は「PayPay」が75%で最も多く、「d払い」が46%、「auPAY」が45%、「楽天PAY」が42%、「その他」が26%となっている。

■ 導入済バーコード決済（複数回答）



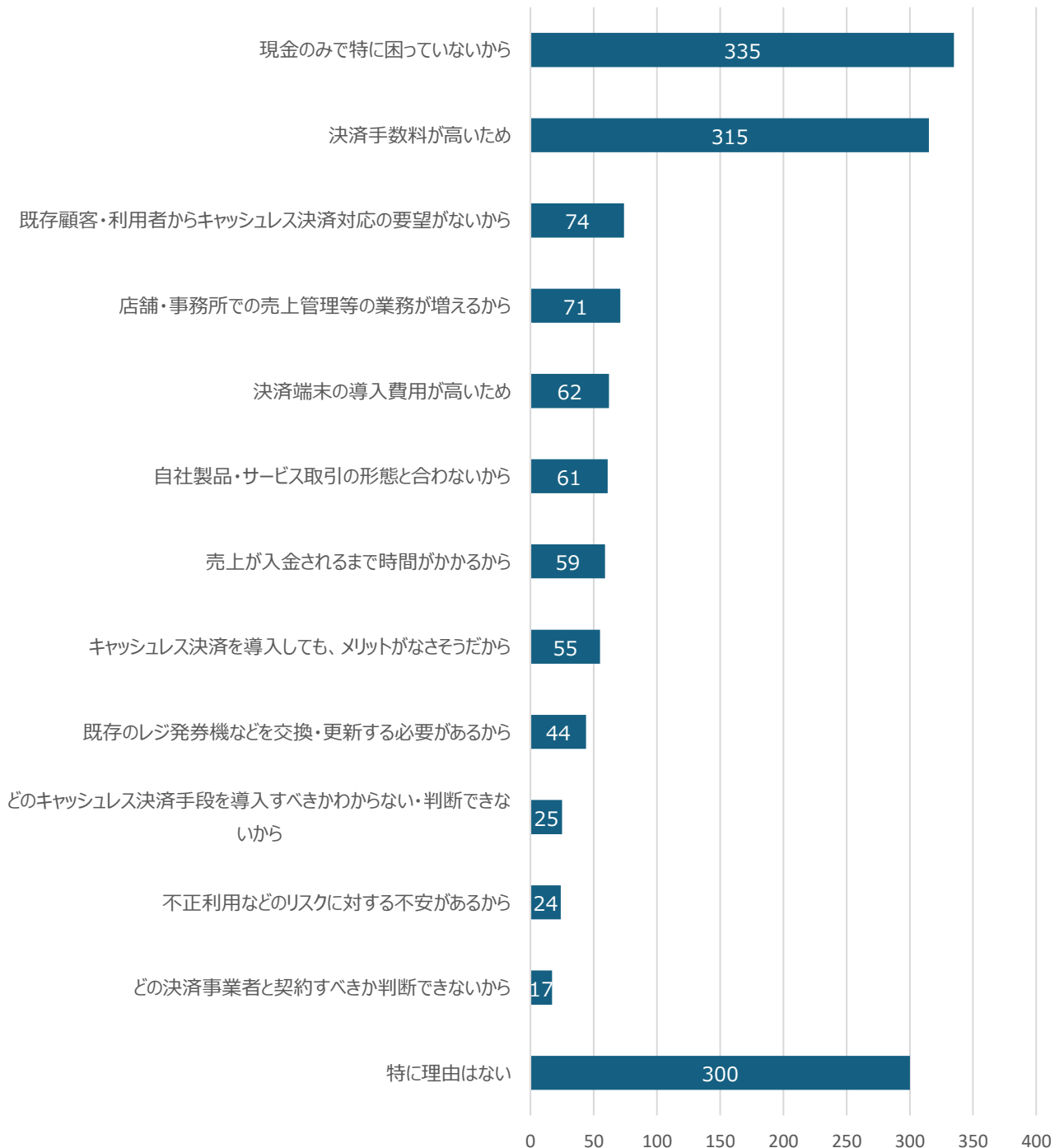
3. 調査結果

3.2 キャッシュレス決済導入状況

(5) キャッシュレス決済を導入しない理由

キャッシュレス決済未導入の店舗(971店)において、未導入の理由を聞いたところ、「現金のみで特に困っていない」との回答が335件で最も多く、「決済手数料が高い」が315件となった。「特に理由はない」との回答も300件あった。

■ 未導入の理由（複数回答）



3. 調査結果

3.2 キャッシュレス決済導入状況

(6)キャッシュレス決済を導入しない理由(自由意見)

キャッシュレス決済を導入しない理由について自由回答で意見を求めたところ、

▽従来から現金のみ取り扱いをしているため

▽顧客層が対応できない、要望・希望がないため

▽オーナーが導入に積極的ではないため

▽面倒くさい

という意見が多く見られた。

飲食業の一部では「券売機のためキャッシュレス対応が難しい」、卸売業では「振込対応のため」、その他業種の医療機関などからは「関連規則の関係上、対応が難しい」といった、各業種で特徴のある意見も見られた。

■自由意見に関するワードクラウド



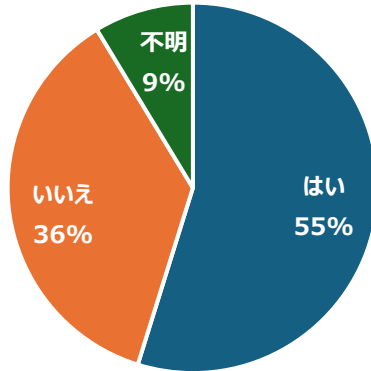
3. 調査結果

3.3 商店会の加入状況

(1) 商店会への加入状況

調査回答店舗のうち、半数を超える55%(2,147店)が「商店会に加入している」と答えた。「未加入」の店舗は37%(1,430店)だった。

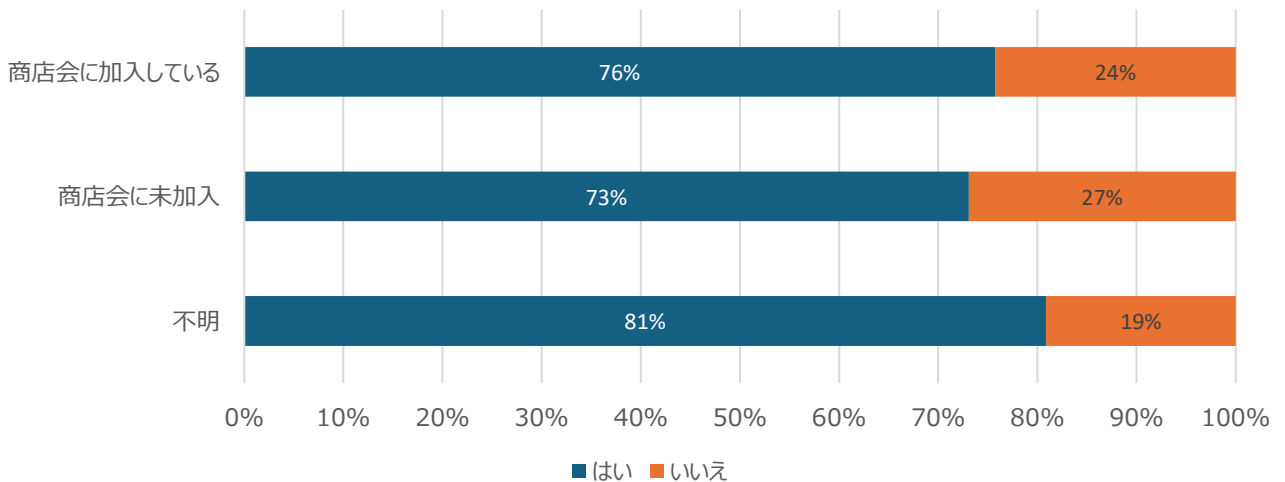
■ 商店会に加入しているか



(2) 商店会加入状況とキャッシュレス決済導入率

商店会加入店舗でのキャッシュレス決済導入率は76%となった。未加入店舗では73%となった。

■ 商店会加入／未加入店舗別のキャッシュレス決済導入率



3. 調査結果

3.4 大田区プレミアム付デジタル商品券事業への参加状況

(1)大田区事業への参加状況

大田区プレミアム付デジタル商品券事業への参加状況を聞くと、「参加経験がある」と答えた店舗は1,375店(35%)だった。

「参加経験がない」は2,400店(61%)、「不明」は142店(4%)だった。

■ プレミアム付デジタル商品券事業への参加経験があるか

